



解決へ重要な局面 総結集と総団結を

第七十六回 定期全国大会開く



NO. 640
発行
2008・8月11日
国鉄労働組合
新潟地方本部
発行責任者
守橋久仁雄
編集責任者
教 宣 部



書記長集約

今大会は、全体が総団結・総結集する場と感じられた。41名の代議員から発言があった。

○JR不採用事件～ 団結が完全に回復したからこの局面になった。裁判闘争が弁護団の協力で前進した。政治政策も大きく前進した。そして、国会要請や大衆行動が解決環境をつくってきた。四者四団体の団結がつくってきた。これから慎重に分析し運動を前進歩んでいく。

要請は明確にする、裁判と同時決着する。1047名の一括解決をめざす。政治解決については、民主党を窓口国会内闘争について院内での運動を取り組み、この間つくりあげてきた信頼・運動を政治に場で訴え広め進める。

野党四党は、解決すべきと表明、これからは与党への対策を取り組んでいく。そして、連合への信頼関係をつくる。21年間の闘い～物販・カンパ活動など、さまざまな闘いでささえてきた。闘争団の闘い、国労組合員との団結、21年間の闘いは王道をつくってきた。世論喚起～全体での意思統一を強める。10・24中央集会を成功させる。多くの仲間の結集やこの局面にふさわしい大衆行動を取り組んでいく。

○組織拡大～ 多くの拡大の経験が報告された。全国的に成果があった。この大会の大きな特徴は、少数派の国労が拡大を達成している。和解などの背景もあったが現場での行動が結果を生んできた。新採者も拡大したが復帰も多くあった。最後は国労で辞めたい、それがもう一步踏み出す決意になったのではないか。

○労働条件改善～ 三島・貨物問題、並行在来線の問題について専門委員会を設置し方向を出していく。22路線・530キロが、三セク化になっている。

非正規労働者の格差が大きくなっていく。この問題は09春闘で闘っていく。安全総点検なども進めていく。

○反戦平和・高齢者問題など苦しい生活実態だ。職場の中で運動をつくって総選挙で闘っていく。本部も先頭に立ってがんばる決意だ。



第七十六回定期全国大会が七月三十日～三十一日にかけて、伊東市『ホテルじゅらく』で開催された。代議員七十五名中、七十五名の出席、大会役員の全員主席で開会し傍聴者など、全体で二百名を超える組合員が結集しました。

JR不採用事件 組織拡大 安全問題が集中



今大会では、JR不採用事件の問題や職場での組織拡大の取り組み・拡大達成の報告や安全問題に対して発言が集中しました。二日間で四十一名の代議員の発言がありました。来賓挨拶では、国鉄闘争中央共闘会議の中里議長・山口事務局長の挨拶や、闘争団神宮議長の挨拶など多くの方々から力強い激励がありました。



スト権確立投票

★スト権確立を求める事項★

- JR不採用事件の確立に関する事。
- 賃金に関する事。
- 労働条件、労働協約に関する事。
- 組合間差別・団交拒否等、労働基本権に関する事。
- 反首切り・反失業・雇用確保に関する事。
- 制度・政策に関する事。
- 基本的人権及び国民的課題に関する事。

大会二日目午後から『スト権確立投票』が行われ、代議員七十三名出席の中七十三名全員が賛成しスト権が確立されました。

スト権確立

今号は、挨拶などを中心にまとめ次号は、代議員の『発言について』特集しますのでよろしくお願ひします。

(地本・教宣部)

国鉄闘争中央共闘会議 中里議長

★新たな展開の幕開け

透析中の健康状態で昨日は透析の日で大会に出席することができなかった。

1年間、大会以降、全体が奮闘してきた。安全問題や労働条件改善の闘いについても闘ってきた。国鉄闘争は22年が経過したが、国労全体がささえてきた。7月14日、高裁の和解提案があった。22年間の闘いの力だ。人道上の問題としてとらえていく。

話し合いのテーブルは開いた。対等平等の精神で、年金・雇用・解決金の要求を、満足のいく勝利解決をめざす。窓口が開いてからが大切だ。団結が何より重要だ。全組合員の意思統一が何より大事、油断しないこと。テーブル交渉を油断せずに労使交渉をお願いしたい。新たな展開の幕開けだ。



国鉄闘争中央共闘会議 山口事務局長

★解決水準を高めていく

7月14日に東京高裁で和解が提案された。最終的な回答の局面になっている。一定の段階で話し合いがされている。

みんなの力で可能となってきた。解決の局面時の団結が一番難しい。ひとつにまとめていく。

しっかり団結し、最後まで団結を強めていく。運動と行動の中で解決水準を高めていく。



来賓あいさつから

岩元青年部長 特別発言

職場生産点から反撃に 転じていこう

組織拡大について、17名の拡大、最大の拡大だった。分会活動の強化・活性化が重要だ。正しいことを言いながら国労は少数だ。青年労働者の要求の掘り起こしをして交渉していく。職場活動を展開し、その状況などを青年労働者に返していく運動をつくる。職場生産点から反撃に転じていこう。



国労闘争団 神宮議長

★解決促進を図る

闘争団員の仲間は、48名亡くなった。JR不採用事件があっただけで、早く亡くなっている。闘争団のうち200名が60才以上になっている、22年間の重みを感じる。

高裁の和解提案、国交省大臣の発言について政府の和解案として考えていきたい。重要な意味を持つ。

鉄道運輸機構訴訟について、高裁や大臣は受け入れる。四者四団体はこの時期に解決促進を図る。四党合意の二の舞にしない。

- ①解決の出口まで四者四団体が団結していくこと。
- ②雇用・年金・解決金の要求をしっかりとしていくこと。
- ③裁判・大衆闘争を中央、地方でやりぬくこと。闘争団は出口までやりぬくこと。



編集後記

今回は『全国大会』の特集になりました。挨拶を中心に編集しました。内容的に不十分なところがあると思いますが、『国鉄新聞』を参照してください。

全国大会は二日間の日程で開催されましたが緊張感のある、すぐまとまった大会でした。全体が、総結集・総団結していくという雰囲気を感じられました。

次号は、代議員の『発言』を中心に編集する予定です。

